

想

「声の広報みたね」

町長 三浦正隆

先日、琴丘地域ひまわりセンターを拠点に活動されている音訳ボランティアグループの代表である松庵寺ご住職渡邊紫山さんから「声の広報みたね第134号」（平成29年5月号）のカセットテープをいただきました。ある会合でお会いしたときに「声の広報みたね」を一度聞いてみたいと申し上げたからです。

どうして「声の広報」に興味を



渡邊紫山さんの収録風景（ひまわりセンター）

持ったかというところ、実は4月の新・元気づくり支援事業に町内で活動している音訳ボランティアの3団体から同時に応募があったからです。3団体とも申請した補助金で古くなって使用できなくなつた録音機材を購入したいのとこのと。私は「関係機関に機材への補助を要望してもなかなか実現しない」と書かれた申請理由に驚き、視覚障がい者を支援する事業に町の配慮が足りなかつたと反省させられました。

ラジカセにセットして聞いてみると最初は元気の良い「琴丘町民讃歌」から始まりました。その後、ナレーションで広報みたねの表紙についての説明があり、そしてこの後流れてくる内容10数項目の説明があります。5月号では三種三十六景フォトコンテストの審査結果が最初に来て、サンドクラフト2017、秋田県知事選挙結果と続きました。最後の編集後記

まで17項目が収録されています。

渡邊さんに声の広報を始めた動機を尋ねると「人が足りないからと誘われた」からだそうです。特に気をつけているのは、90分テープ1本か1本半に纏めるために広報をそのまま全て読むのではなく、項目立てを行いカットすべきはカットして重要なところだけを収録しているとのこと。時間の感覚も今では大体勘が働いて納まるようになってきたそうです。

また、録音する時はアナウンサーがしゃべるよりも丁寧に話そう心がけているそうです。耳だけで聞いている視覚障がいの方は状況が見えないので、却って声は無表情で一定の高さで伝えるのが良いのだとか。また朗読とは違い、声の抑揚は付けない方が良くとも言っておられました。1回分の広報を収録するのに2、3人で担当して準備等を含め3日位かかるようです。利用者さんから感謝の

言葉をお聞きいただいた時にはやりがいを感じるそうです。

机の上に「声の広報連絡ノート」を見つけたので見せていただきました。6月6日（火）の日付で2名の女性ボランティアの方々がこう記されていました。「先日、紫山さんから新しい機器の説明を聞き今日が使い始め。少しドキドキしながらの吹き込みでしたが、トラブルもなくスムーズに出来ました。出来るだけテープ1本にまとめようと努力しましたが、やはり2本目に足をかけてしまいました。（以下略）」

三種町には琴丘地域以外にも山本地区、八童地域に同じように声の広報で頑張っているという皆様がおおいでになります。皆様の温かいお気持ちに改めて感謝いたしますと共にこれからもどうかよろしくお願いたします。

皆様、今月もどうか健康で、お元気にお過ごし下さい。

